

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜北高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月26日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜北高等学校校長室
- 4 参加者
 

会 長	村瀬 忍	岐阜大学教授
副会長	若山 桂子	PTA会長
委 員	澤井 隆彰	人材育成コンサルタント(欠席)
	高橋 進	則武自治会連合会顧問
	西川 光美	令和3年度PTA会長
	古田菜穂子	同窓会代表(北斗会顧問)
	山下 真史	岐阜青年会議所専務理事
学 校 側		
	鈴木 健	校長
	土田 修三	教頭
	日下部 光	教頭(欠席)
	中川 牧子	事務部長
	西野 公司	教務主任
	坪内有美子	進路指導部長
	若狭 幹大	生徒指導部長
	小枝 千穂	特別活動部長
	高橋 淳	保健厚生部長
	山田 知史	図書部長
	河合 恵哉	総務渉外部長
	山田 雄太	カリキュラムデザイン部長

## 5 会議の概要(協議事項)

令和5年度自己評価、学校関係者評価についての意見等

意見1：北高祭でヘルメットの啓発活動があったことが素晴らしいと外部で評価されている。他校ではヘルメット着用率が低いと嘆かれている声が聞こえてくるので、このような活動をしていただいたことに感謝している。今後も子供たちに命の大切さを伝えてほしい。

⇒昨年度から岐阜県警察や安全運転協会に依頼し、学校祭ではブースを設けて啓発活動を実施している。ヘルメットの購入に関しても本校同窓会から補助金を出していただ

けることになり、有難い。校則などで強制することではなく、生徒ひとりひとりが命の大切さを理解したうえで、着用してほしい。

意見 2 : 交通安全指導や校門指導なども共に助け合っていきたいし、地域で協力できることがあれば伝えてほしい。

意見 3 : 大学入試の出願に際して生徒ひとりひとりに対する指導が、とても手厚く有難い。資料作りがとても大変なことは容易に想像でき、仕事ができる方に集中すると疲弊してしまうので、資料の作成を業務委託するという選択肢はないのか。

⇒外部模試は業者がデータ処理を行うが、校内のデータについては個人情報でもあるので外部委託は少しハードルが高い。成績の分析は担任として最も重要な業務のひとつでもあると認識しているが、以前から課題だと感じているので、良い方法を模索していきたい。全て外部委託することはできないが委託できる部分もあると思う。

意見 4 : 国公立大学を目指す生徒が 90%以上とのことだが、学校が国公立大学を目指す方向性で生徒を指導をしているのか。

⇒主体的に自分の進路を決められる生徒の育成が重要であり、学校はこれまでの経験の蓄積から、あらゆる選択肢を生徒に示すのがあるべき姿と考える。本校に入学する生徒は、どの教科にも偏りなく習得している者が多く、国公立大学入試に向いているため、自然と国公立大学を目指す生徒が多い。

意見 5 : 資料にある「問題を抱えた生徒に対して」という部分で「問題」とはどのようなことか。

⇒教務部で言う「問題」とは欠課などで単位認定上の心配をさすことが多い。生徒自身が積極的に教育相談に行けないこともあるので、欠課時数や欠席日数に応じて、学年主任、教務主任、教頭などから声をかけ、生徒・保護者を含め三者で面談をするルールを決めて丁寧に対応している。

意見 6 : 保護者に対して送迎の車などの近隣からの苦情について伝えていくことは必要ではないか。もっとはっきり当事者が自分のことだとわかるくらいの表現があってもよい。

⇒親がルールを守らないことは子の教育に影響があり家庭の問題だと思うが、近隣の方も苦情は学校にしか言えないのでそれは受け止めて対応していこうと考えている。

意見 7 : 本校の教職員は出席停止の際のオンライン授業の対応や、生徒ひとりひとりに丁寧に対応して組んでおり有難い。また、保護者に対する苦情については PTA でも対応していく必要がある。

意見 8 : 特別活動部の反省について生徒の自主性を重んじるのであれば、教職員が先を見通し先に手を打ち過ぎると逆に中途半端になると思う。自主性を重んじるなら覚悟をもって待つことも重要だと思う。

⇒生徒会執行部の指示が遅く、各クラスの動きが鈍くなるという事案が起きた。生徒会執行部の生徒がプランニングして指示を出すことができるよう教職員がサポートしていく必要があるという意味で反省点として挙げたものである。

意見 9 : ぎふ清流文化プラザの探究発表会は素晴らしかった。発表する生徒たちの姿は誇らしい。探究活動についての説明のなかにあった「手触り感」のある開発とは何か。また、

生徒が自主的に外部に出られるようにするために何か課題があるのか。

⇒身体を使った経験を伴う活動を通じた学びがポイントになると考えている。今年度の1年生は岐阜県全域をターゲットとした探究活動、2年生は世界のSDGsをテーマとして探究を進めているが、対象とする範囲が広すぎるという意味で手触り感がない。来年度に向けて1年生は学校周辺の身近な地域に出向いて魅力を再発見し、2年生は東海地域までの問題を自分が実際に行って触れるくらいの地域の課題として、解決の策を図ろうと考えている。また、外部連携（地域環境専門の先生や、NPO法人のサマーキャンプ、岐阜青年会議所のまちづくりプロジェクトなど）し、指導助言をいただきながらより高度な活動をしていきたい。

意見 10：本校の教育レベルが維持できていれば、全国的に見ても大成功していると感じる。若者が岐阜県に愛着を持つことで、優秀な人材が流出してしまうことのないようにしてほしい。

意見 11：最近では大学でも主体的に問題を見つけて自分から進んで行動する学生が少ない。メールなどをタイトルだけ読み内容は確認しない学生も増えている。是非、その辺りをきちんと対応できる仕組みをつくってほしい。

## 6 会議のまとめ

- ・令和5年度を総括し、学校として成果と課題を整理した自己評価の結果を報告し、学校関係者評価として本校の教育活動に対して、ご意見やご提言をいただいた。本校に寄せる多くの期待や要望を直接拝聴することができ、充実した会議となった。いただいたご意見やご提言は、来年度の学校経営計画の策定に反映させていく予定である。